

2019 年度大学院経営学研究科経営史演習の打ち合わせ

1.今年度の演習の持ち方について

(シラバスより)

本演習では、現在および将来の企業経営のあり方を模索するために、過去の企業経営の事例を研究します。その際、以下の点に留意します。第1に、「経営史」のうちの「歴史」について検討します。ここで問われる「歴史」とは、年表のような編年史ではありません。提示者の意図のもとに構成された「歴史的事実」＝ストーリーをもった物語です。そうしたストーリーをもった物語、「歴史的事実」をどのようにして作るのか、どのような歴史的必然性があるのかを考えていきます。最近、グローバル・ヒストリーの影響を受けて新たな歴史学の研究成果が生まれています。こうした歴史学の現状にも留意します。第2に、企業経営をめぐる社会的な環境にも留意します。企業経営はそれ自体が単独に存在するわけではありません。企業を取り巻く社会的な環境に影響されるからです。以上のうえで、第3に、「経営史」のうちの「企業経営」について検討します。特に、今回はイノベーションを史的な観点で検討したいと思います。また、「モノづくり」の面に留意します。

今年度も、これまでと同様に優れた経営史（経済史も含みます）に関する古典，方法に関わる議論も取り上げて検討するとともに、現在の企業経営の動向を知るため、経営戦略に関する研究も取り上げ、実際に企業ヒアリングをも実施したいと思います。

2.輪読対象の文献と担当者の決定

文献の報告としては、すべて内容を網羅するのではなく、取り上げる箇所を絞り、ポイントを絞ってレジュメを作成して報告すること。

(事前にどの箇所を、つまりどの章を読めばいいのかをお伝えください)

回数	月	日	曜日	時限	文献	報告者	司会者	備考
1	4	15	月	2		ガイダンス		
2	5	8	水	2	Carr (1961)	中瀬	中瀬	月曜日振替日
3	5	27	月	2				
4	6	3	月	2				
5	6	17	月	2				
6	7	1	月	2				
7	7	18	木	2				月曜日振替日

3.参考文献

次回の文献

Edward Hallet Carr (1961) What Is History?, London: Macmillan (清水幾多郎訳『歴史とは何か』岩波新書, 1962年)

① 経営史について

Phillip Scranton and Patrick Fridenson (2013) Reimagining business history, Baltimore: The Johns Hopkins University Press (粕谷誠・矢後和彦訳『経営史の再構想』蒼天社出版, 2017年)

② 現代日本の現実

奥谷孝司・岩井琢磨 (2018)『世界最先端のマーケティング』日経BP社
諸富徹 (2018)『人口減少時代の都市 成熟型のまちづくりへ』中公新書

③ アジア経済の実相

遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太 (2018)『現代アジア経済論-「アジアの世紀」を学ぶ』有斐閣ブックス

④ グローバル・ヒストリー

秋田茂 (2019)『グローバル化の世界史 (MINERVA 世界史叢書 2)』ミネルヴァ書房

⑤ 生産システム

中瀬哲史・田口直樹 (2019)『環境統合型生産システムと地域創生』文眞堂

⑥ 企業と社会, 企業組織の変化

守屋貴司・中村艶子・橋場俊展 (2018)『価値創発 (EVP) 時代の人的資源管理』ミネルヴァ書房

松本創 (2018)『軌道 福知山線脱線事故 JR 西日本を変えた闘い』東洋経済新報社

4.その他

単位認定等について

前期博士課程の分野専門演習科目の研究報告書: 8000字以上

後期博士課程の分野専門演習科目の研究報告書: 12000字以上

提出時期は2月初旬, 詳しい日程と提出先は1月初旬, ご注意ください。

工場見学, フィールドワークの提案

奈良県靴下工業協同組合 (大和高田市)

今西酒造株式会社 (桜井市); 酒の聖地巡杯ツアー (利き酒体験あり)